

第1回 魚津市教育振興基本計画策定委員会 会議録（要旨）

1. 日 時 令和2年7月31日（金） 午後3時から午後5時
2. 場 所 魚津市役所第一分庁舎2階会議室
3. 出席者 委 員 10名、オブザーバー1名
事務局 11名

4. 議事等 (1) 策定の背景、計画の基本的な考え方、検討の進め方 資料1
(2) 魚津市教育振興基本計画（骨子（案））について 資料2
(3) 魚津市の教育の現状と課題 資料3
(4) 魚津市がめざす教育 資料4
(5) 今後のスケジュールについて 資料5

5. 議 事

- 教育長 開会挨拶
— 教育長あいさつ —（略）
- 事務局 — 委員の紹介 —
— 会長選出 —
会長に、笹田茂樹氏（富山大学人間発達科学部教授）が選出される。
- 会 長 — 会長あいさつ —（略）
- 事務局 — 副会長選出 —
会長が吉田譲氏（魚津商工会議所副会頭）を指名し、委員に承認される。
- 事務局 — 諮問 —
教育長から会長に諮問書をわたす。
- 事務局 — 会議の公開について —
会議の公開について事務局より説明する。
策定委員会の都度に、出席された策定委員の氏名等や、会議録（要旨）を作成し、市のホームページ等で市民に公開する。議事内容の公開について、個人が特定できない方法で開示する。
- 会 長 議事資料の説明をお願いします。
事務局 — 議事（1）、（2）説明

会 長 資料2ですが、前回策定した基本計画を大筋踏襲するという形でのよろしいでしょうか。

事務局 踏襲しようと考えております。

会 長 踏襲して細かな部分については、あらたな要素取り込んでいくということでのよろしいでしょうか。

事務局 教育長の挨拶の中にもありましたとおり、今般の学校教育を取り巻くICTというキーワードのもとに進んできておりますので、オブザーバーに参加して頂き、計画の中に盛り込んでいきたいというようなことを考えております。ほかの分野につきましても、現在、これから5年間の情勢を踏まえて修正すべきところは修正しながら、計画を策定していきたいと考えておりますのでよろしく申し上げます。

会 長 特にICTの項目については、計画に盛り込んでいくということですね。コロナ禍でタブレット端末が全児童に配布されることが早まったようです。

事務局 一 議事（3）説明

会 長 基本的なところなのですが、今ここに提示されている資料3は、新しい基本計画に盛り込まれると考えてよろしいでしょうか

事務局 そのとおりであります。資料3を修正したものが、最終的なものになります。

会 長 ただいまの説明でなにか質問はありますか。

委 員 小学生のスポーツ少年団についてですが、例えば野球やサッカーをやっていた子供たちが中学に行っても、それぞれのスポーツをどれだけ継続しているかという数値がでていませんが、実はある小学校で男子生徒の半分以上が野球をやっているのに、中学生になり、野球部に入る子どもたちは、ほんの10～20%しかいない。小学生の時点で野球に興味なくなっている子供たちが多数見受けられています。練習時間についても、夜の8時頃まで練習している環境があるので、教育委員会でシステムややり方を統一してもっと子供たちにスポーツが楽しいものと植え付けるのが小学生のスポ

一ツ環境であると思います。その辺はどのようにお考えでしょうか？

事務局

確かに、委員の言われるとおりでございまして、スポーツ少年団の加入率は30%と理解しています。加入していた子供たちが中学生になってどれだけ同じスポーツの部活に入るかということは把握できていないところがあります。中学生になって同じスポーツを継続しない子もいますが、軟式テニスや卓球など別のスポーツで継続をしている子が多いのではないかなと思っていますところでは。今回の現状と課題の中でスポーツ少年団について触れているところがないので、記載していきたいと考えております。スポーツ少年団で一番大事なことは、そのスポーツが好きになることや体を動かすことが好きになることが重要と思っております。同じスポーツを継続することだけではなく、小中学生が運動の楽しさを知れるように計画に記載していきたいと思っております。全くなにもしていなかったわけではありませので、今回は、計画に盛り込んでいきます。

委員

地域の伝統行事ですが、学校の統合により消えているような気がしています。例えば上野方の刀踊り、石垣の刀踊り、松倉地区の獅子舞が継続できるのかと思っています。消えつつあるものの発掘や伝承継続、たてもんの引きまわしはボランティアですが、たてもんや宮津八幡宮の太鼓のたたき方などは、子供たちが少なくなって地域で練習できないような状況になっている。そのようなことを今後繋いでいくには、なにかいい方法がないかなど。子ども達に負担をかけるのもよくないですが、文化を残していきたいということで質問させていただきました。

事務局

言われるとおり、各地域の伝統文化はかなり下火になってきているところもあるのかなと思っています。ただ、学校の統合とはあまり結びついておらず、地域の公民館だとか地域活動のなかでどれだけ事業ができるのかということが課題なのかなと思っています。一例をあげますと金山谷の獅子舞ですが松倉小学校で地域活動として授業の中で教えていたわけですが、星の杜小学校に統合されて、星の杜小学校で教えるということは、なかなかできていない状況です。しかしながら公民館のなかで教室を開き、今年の3月に子ども獅子舞が披露されました。大変ではございますが地域の皆さまでなんとか継続していく努力が必要なのかなと思っています。その面について、生涯学習スポーツ課としては、何らかの支援ができないか考えているところがございます。できれば文化協会とも連携して発掘して何とか残せるようにしたいと考えています。今後の施策で記載できればかなと思っています。

委員 上野方の刀踊りについてお話がありましたが、指導者自体が不足しており、昨年、未来会議において地域の伝統文化芸能をどのように継承していけばいいか話し合い、来年からは指導者の強化に取り組んでいきたいと進めているところであります。刀踊り保存会の方はいらっしゃいますが、活動まで至っておらず、地区で問題を解決していきたいと思っております。

委員 生活習慣についてお話させてもらいたいと思います。課題として、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的生活習慣の定着とありますが、私の会社の中には、なかなか朝の挨拶ができないものがあります。挨拶ができればコミュニケーションが取れるようになっていきたいと思います。小さいころの生活習慣は学校だけではだめで、家庭社会、PTA活動が大事であります。社会において、朝の挨拶「おはようございます」ができないようではいけないと思います。挨拶は人間としての基本ですから、学校の先生、PTAが中心となって、徹底的に行っていかないとかなあと私は感じております。

事務局 貴重なご意見ありがとうございました。委員さん言われるとおりでと思います。挨拶について、子ども自ら意味をしっかりと理解しながらできるようになっていきますが、なにより身近に手本や模範が必要かと思えます。学校の先生、保護者、私も学校現場にいた時は、保護者には「いってらっしゃい」とぜひ声をかけて送り出してあげてください。とお願いしていたこともありました。課題の中には、早寝早起き朝ごはんと記載しておりますが、基本的生活習慣の根本に挨拶を含めて考えていきたいと思っております。

委員 もう一つ付け加えますが、子供が親に「おはようございます」と言っても、親が「おはよう」では、子供は「おはよう」だけの挨拶になっていきます。親が「おはようございます」と言い続ける必要があります。小さいころの習慣が大人になっても続きますので、ぜひPTAで親に教育するというのも大事であると思えます。

事務局 地域ぐるみで親御さんも育てていく視点が必要なのかなとも思います。

委員 7ページの生活習慣の現状のまるの二つ目 スマホの所持率、ネット環境の整備がされているという現状、課題では、情報モラルについて記載されています。生活習慣というところで学校の方で心配していることがあり、環境もそうですが、ネットにかける時間が結構な時間をかけているという実態があります。このあたりが現状と課題そしてどんな施策につながるか

わからないですけど、ただ生活習慣という面では、そのあたりの時間は小中とも少しくローズアップできないのかなあと考えております。学習習慣と連動しているので現状課題が意識できる表現にできないかなと考えております。

事務局 ご指摘頂いたとおりでと思います。先ほどの挨拶にも繋がるのかなと思います。

ネット依存という言葉が出ていますが、そうなっている子供たちは、自分の世界だけで終わっていますので、他との交流機会が奪われているような感じがします。そうすると挨拶ができない子ども達が多くなっていくのかなと思います。ぜひ基本的な生活習慣の中に挨拶をして規則正しい生活習慣を踏まえながらネットの使用時間を家庭でルール作りをしながらしっかりとやっていけるような、そして学習習慣を計画しながらできるように、この後の第5章の計画に活かしていきたいと思います。

委 員 資料の差し替えはしていただけますでしょうか。

事務局 差し替えます。

委 員 上の娘が中学2年生、真ん中が6年生、一番下が年中の3人娘の母でございます。最近の自治問題といいますか、本日で1学期が終了で、明日から夏休みとなります。ラジオ体操について伺いたいのですが、小学校区の中でも地区によりラジオ体操のやり方が違っていたのですが、今年はコロナ禍ということで、中止になりました。教育振興委員会からプリントで案内がありました。魚津市のラジオ体操の位置づけについて教えていただきたいと思います。ラジオ体操は、体力の向上、基本的な生活習慣を身に付けられると思います。私の時代は、毎日ラジオ体操に参加し、ハンコをもらい学校に提出しなさい。ということでした。今後のラジオ体操については地区におまかせということですが、ラジオ体操により体力や健康的なこと、友達と顔を合わせるなどいろいろなことがラジオ体操を通して見えてくると思います。学校の問題なのか教育の問題なのか、それとも地域のことなのか 話を聞かせていただきたいと思います。

事務局 私の幼少の頃もラジオ体操は強制的にありました。以前は、いろんなことがすべて学校任せというスタンスでしたが、文部科学省もお話されていますように地域に開かれた学校ということで、学校だけでなく、地域や保護者と協力しながら、学校運営を進めましょうという一貫の中でラジオ

体操を学校から切り離していくような、地域に返していくような動きになっているのかなと思っております。そこで今回、小学校のラジオ体操については学校で実施判断するのではなく、地域ごとで実態が違いますので、地域で子供たちの実態に応じた取り組みをして頂けないかと校長先生から提示されているのかなと思います。

委員 今年度は、ラジオ体操を行わないということで発信させていただきました。

来年度については、地域のほうで話し合いをして考えていただきたい。今後1年間ありますので、ラジオはどうするかなどは、学校にありますからどうぞという話にもなると思いますし、今後1年かけてPTAの予算やラジオの対応の在り方などについて話し合っていったらどうかなと考えています。

委員 ほかの小学校もそうなのですか。

委員 今年に関しては、魚津市内は全部ラジオ体操を行わないことになっています。

委員 PTAが主になる、親が主になるのですか。

事務局 老人会の方々も、子供たちとラジオ体操を行いたいということもありますので、それぞれの地区で検討してもらいたいと思っています。

会長 17ページの魚津市地域学校協働本部という組織が平成31年度に整えられたということですが、地域学校協働活動の中で出てきた伝統行事などは地域の方が協力していろいろな活動を行っていくのがベストであると思いますが、具体的にどのような活動をしておられるのかということと、協働本部は魚津市の中央に1か所おかれた形になっているのか。地域によっては小学校区ごと、中学校区ごとにおかれていることもあり、そういったことについてお聞かせください。

事務局 要綱を設置しておりまして、本部は地域協働課が事務局を持っており、東西中学校校下から退職された教職員それぞれ1名を地域学校協働本部推進員として委嘱させていただいております。推進員や放課後子ども教室学童保育とは別で、放課後学童クラブの指導員、土曜教室の指導員、PTA小中学校の校長会の先生で構成しております魚津市放課後対策事業運営

委員会設置しました。現状は1年に1回しか協議をしていませんが、そのような形で平成31年度から進めさせていただいております。

会 長 主には、放課後子ども教室、土曜教室の運営にかかわっているということですね。

事務局 一 議事（4）説明

会 長 一番右側に書いてある第2期の展開施策（案）に基づいて、次回の会議に具体的な施策（案）がでてくると考えておりますので、案についてご意見を頂ければ反映されるということです。

委 員 過去の日本を取りまく環境と今の環境が非常に違ってきていると感じておりまして、あまりにも近隣諸国の過激な報道発言が多くなっていて、日本が危ういと感じていまして、中学生までの考え方にどこまで踏み込めるのかわかりませんが、覚悟しなければならぬ年齢とは、どの程度なのか。日本を取り巻く環境がとても厳しいと中学生にどのように伝えればいいのかわかりませんが、そのような教育が必要な時期にきているのではないかと思います。高校生や大学生であれば自ら学ぶということがあると思っています。最近特に状況の変化が激しいので、ここに書いてある「基本目標の社会情勢に応じて生き抜く確かな学力の育成」ですが、英語・数学・国語も大事ですが、環境に耐えうる教育が以前より必要と感じています。

会 長 いつからかということは、非常に難しく、学校教育自体が、政治的中立を保つのが大原則で、そのへんをどう反映させていくか難しい問題です。ただ今のご意見に対してなにかありますか。

事務局 私も現場で教えておりまして、日本の教育はまんざらでもないかというか、決して他国に負けないような教育を先生方は行っておられます。継続して子供たちの力をつけていきたいと思えます。確かに、欠けている部分もありますが、欠けている部分を補い、がんばっている部分を伸ばしていきたいなと思っております。

事務局 補足して、先ほどの課題として、幼児期には、文字や数などの認知能力と粘り強さとの非認知能力を並行して高めていく必要があると記載しているところです。この4歳5歳の年長児の頃に一番力が伸びると学術的にも実証されています。非認知能力ですが、目標に向かって何度も挑戦して取

り組むとか、友達と協力して目標を達成することや、人との関わりの中で自分の気持ちを落ち着かせたり、相手の気持ちを思いやったりというような力をつけるのが非認知能力ということで、将来、学校に上がった時に、みんなで課題を解決したり、勉強においても何度も考え直して身に付けていくとか、スポーツの中でもルールを守りながらいかに勝つかということを考える力です。ちょうど幼児教育期に力がつくといわれています。そういうことで、国で責任をもって育てようと3歳児以上の保育料の無償化が始まりました。どういうふうにしたら学力云々、覚悟とかあったわけですが、幼児教育の時から取り組んでいかなければならないのかなと思っております。

委員 今盛んに英語教育を小学校から始めるということですが、現状を教えてください。

事務局 新しい学習指導要領が今年度4月からスタートしております。その中に英語教育の充実ということがうたわれております。小学校3年生 4年生は外国語活動として活動を主体として週に1回、時間割の中に位置づけられています。5、6年生については、外国語科として簡単な英文を書くとか読むなど週に2時間設けられており学習しております。魚津市では今ALTという外国人のアシスタントを各授業に位置づけネイティブな発音を聞きながら楽しく英語の勉強をしております。1、2年生も年間10回位置づけて取り組んでいるところです。

会長 小学校の外国語教育が広がっていますが、教える先生もALTの協力を得ながら授業を行っておられます。

委員 小学校規模の適正化は、道下と経田のことを言っているのですか。

事務局 第2期施策の展開の規模適正化は 令和5年度までに道下と経田を統合すると書いてございますので、令和3年から令和7年度の計画に含めた形で書いてございます。すでに統合した学校についての規模の適正化ですが、例えば1学年2クラスが好ましいのですが、星の杜小学校については、現在適正な規模ですが、少子化が進行していき単級化するということもありうるかもしれません。住宅地の開発なども関係してきますが、そのようなことを含めた規模適正化ということでもあります。

規模適正化は、ハード面では8割方できておりますが、中身については、ずっと永遠に続くと思って頂ければということです。

委員 経田と道下の統合については、地域住民と話し合いを行っていますか。

事務局 経田と道下の統合については、現在の児童数の推移を見ております。現実的な数字でいきますと、計画の時より児童数が多くなっており、教室が足りなくなると推測しています。

児童数の基準ですが、今 40 人ですが、将来的にどうなるかわからないので、しばらくは、そのあたりを見極める必要があります。

現在は児童数の推移を注視しながらということで、道下経田に説明が必要な場面が出てくるかもしれません。

令和 5 年の 4 月からとなれば、よつば、星の杜小学校のように新しい校舎を建てる必要がないので、準備の期間は、まるまる 2 年はかからないのではと思います。もうしばらく児童数の推移を注視していく段階にあります。

委員 令和 5 年度には 14 級ということですが、今の学校では、入らないということでしょうか。

教育長 補足ですが、1 学年 2 学級であれば、大丈夫です。児童の転出入がないと考えると、1 学年で 3 学級できるという学年があり、教室が足りなくなり、そういう意味で推移を見守るということです。

委員 経田の児童数は、変わりませんか。

事務局 統合計画は平成 26 年度に作成していますが、その時にこれまでの減少率から予測して、これぐらいまで減るだろうと計画を立てたわけですが、どういうわけかわかりませんが、経田も道下もその時の減少する数より、両方とも減少していないという状況で、魚津市としては、いい傾向であり、そのような事情です。

急激な児童数の変化がない限り、令和 5 年 4 月からやりますとは言えず、そのようなときは、校舎の増築が必要になります。増築する場所がない状況であります。

事務局 例えば、道下地区は、アパートがたくさん建っています。このアパートにいる子どもたちが、どこか違う地域で家を建てるということがあれば、また考える必要があります。

事務局 道下小学校をそのまま使うには、もう少し減らないといけないというこ

とになりますか。

教育長

今も減ってはいるのですが、減り方が緩やかということです。

事務局

出生数をみると、平成31年1月から令和元年12月で226人だったと思います。例年250人ぐらいだったので大きく減りましたが、今年に入って、持ち直していますが少子化の傾向は続いていきます。子供たちがどの地区で生まれているかということも加味しなければなりません。教育長も言いましたが、道下経田にそれなりに子どもが生まれているという結果になっています。

事務局

— 「今後のスケジュールについて」について説明 資料5 —

事務局

— その他について連絡

事務局

本日、言い忘れた、言い足りなかったということがあれば、メールや電話でお知らせいただき、素案に盛り込んでいきたいと考えておりますのでよろしくをお願いします。

会 長

本日は第1回目の策定委員会であり、事務局から計画策定の背景、計画の基本的な考え方、検討の進め方、計画の骨子、魚津市の教育の現状と課題についての説明がありました。また、事務局の説明を受け、委員の皆様から意見をいただきました。

本日の議事を踏まえ、委員の皆様は、次回には魚津市の教育における基本理念・基本目標及び基本目標達成のための具体的な施策について協議していただきたいと思います。

それでは、これで第1回「魚津市教育振興基本計画策定委員会」を閉会したいと思います。

皆様方、議事の進行にご協力いただきありがとうございました。